

学校給食の歴史をたどろう

～蕨市と全国の学校給食のあゆみ～

1月24日から30日は、『全国学校給食週間』です。明治22年に山形県の忠愛ちゅうあい小学校で学校給食が始まってから131年が経ちました。戦争によって中止されながらも、様々な歴史をたどり、現在まで続いています。『全国学校給食週間』には、昔の給食を振りかえる献立こんだてが登場します。家庭でも「思い出の給食」「懐かしい給食」について、お話してみてもいいでしょうか？



学校給食の歴史

○…全国のできごと
★…蕨市のできごと

明治二十二年 ○山形県の私立忠愛ちゅうあい小学校で貧しい子供たちに給食を提供し始める。

昭和十五年 ★第一蕨小学校（現在の北小学校）で、石田パン菓子店の石田秀夫さんの協力のもと、全国で初めて学校給食でパンが提供される。

昭和二十二年 ○戦争が終わり、一時中止していた給食が再開される。

★PTAの協力により、北小・東小でミルクなどの捕食給食が再開される。

※ミルク：脱脂粉乳のこと。牛乳から脂肪分を取り除いて粉にし、

お湯などで溶いたもの。

昭和二十九年 ○学校給食法により、学校給食の提供内容が決められる。

★北小・西小・東小・中央小・南小でパン・ミルク・おかずのそろった完全給食が始まる。

○脱脂粉乳から牛乳へと切りかわる。

昭和四十年 ○中学校三校で牛乳のみの給食が始まる。

★第二中学校の東となり旧学校給食センターが完成する。

昭和四十三年 ★単独方式からセンター方式へ変わる。

昭和四十四年 ★中学校でも完全給食が始まる。

昭和五十五年 ★こはん給食が始まる。

昭和五十九年 ★現在の学校給食センターが完成する。

平成十四年 ★栄養士による食の指導が始まる。

平成十七年 ○食育基本法が定められる。



気持ちをこめて、食事のあいさつをしましょう!

食後のあいさつである『ごちそうさま』は、漢字で書くと『ご馳走様』です。『馳走』とは、食べ物を用意するために「走り回る」という意味です。みなさんのところへと給食が届くまでに、生産者のみなさん・配膳員さん・調理員さんなど多くの方が走り回っています。

食べ物の命、料理を作ってくれた人に感謝の気持ちをこめて「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつができるといいですね♪



☆☆おしらせ☆☆

1月15日～21日に「ハローわらび（地デジ 11ch）」にて、給食センターの1日が放送されます。放送時間などは「広報 蕨 令和3年1月号」をご覧ください。